

報 告

横浜市新横浜公園で観察された嘴が変形した オオジュリン *Emberiza schoeniclus*

大和田正人

Masato Owada: Common reed bunting, *Emberiza schoeniclus* with a deformed beak
observed in the Shin-Yokohama Park, Yokohama City

緒言

オオジュリン *Emberiza schoeniclus* はスズメ目ホオジロ科に分類される小鳥であり、アフリカ大陸、ユーラシア大陸、日本に分布し、日本では北海道および本州北部で繁殖する(日本鳥学会, 2024)。冬季に本州以南に移動して越冬し、繁殖期以外では数羽の小群を作ってヨシ原などで生活する(高野ほか, 1985)。今回、著者らが横浜市新横浜公園で野鳥観察を行った際に嘴が変形したオオジュリンを発見したので報告する。

新横浜公園は横浜市港北区の鶴見川沿いに設置され、約 70 ha の敷地面積を持つ大きな公園である。敷地内にはスタジアム、多目的遊水地、減勢池などが併設され、増水時に鶴見川の水位を調節する役割を持つ(横浜市, online)。公園内の樹木は十分に手入れされ、芝生は短く刈り込まれている。一方、本個体が観察された減勢池の対岸は人の出入りが制限され、比較的手入れがされていない。この場所は鶴見川に挟まれ、堤防が築かれているが、樹木が散在し、川沿いにヨシ原や草原が広がっている。新横浜公園 (online) は減勢池を中心に観察される 40 種の野鳥を紹介しているが、この公園を含む港北区小机では 60 種以上の野鳥が報告されている(例: 日本野鳥の会神奈川支部, 2020)。

材料と方法

2024 年 1 月 8 日の 11 時 30 分から 14 時 50 分に新横浜公園内と鶴見川沿いで野鳥観察を行った(図 1)。観察者は著者を含めて 2 名であった。天候は晴れであり、風はほぼ無かったが、時折 2 m/s 程度の弱い風が吹いた。観察には 8 倍の双眼鏡を用いた。発見した野鳥は目視あるいは鳴き声を聞いて種を同定し、デジタル一眼カメラで撮影した。

結果と考察

12 時 40 分頃、減勢池の西端の対岸にあるヨシ群落において(図 2)、著者が嘴が変形したオオジュリン 1 個体を発見した(図 3)。著者からの距離は約 30 m であった。本個体はヨシの茎の間を頻繁に動き回り、時折葉鞘を剥がしてそこに潜む昆虫などを捕食していた。そして、12 時 50 分頃、北方向に飛び去った。本個体が観察されたヨシ群落の周辺では、コガモ *Anas crecca* 2 個体、ハシビロガモ *Anas clypeata* 5 個体、オオバン *Fulica atra* 1 個体が見られた。今回の野鳥観察全体で観察された本種はこの 1 個体のみであった。

本個体はスズメ *Passer montanus* 程度の大きさであり、頭は丸みを帯び、嘴は太く短い円錐形、尾は中等長で均等のとれた形状であった。上面は褐色、下面は汚白色であった。額から後頭は暗褐色、背に暗褐色の縦斑が見られ、最外側尾羽に白斑があった。これらの特徴からホオジロ科のジュリン類と判断した。さらに、脇に褐色の縦斑が見られ、上嘴は変形しているが、暗褐色で丸みを帯び、下嘴は灰褐色、跗蹠は黒褐色であることからオオジュリンと同定した(高野, 1980, 2015; Svensson, 1992; 五百澤ほか, 2014; 永井, 2023)(図 3)。オオジュリンの近縁種にシベリアジュリン *Emberiza pallasi* とコジュリン *Emberiza yessoensis* が知られている。シベリアジュリンは上面の褐色味が比較的淡く、小雨覆は灰褐色、上嘴は黒色で直線的であり、跗蹠は褐色である。コジュリンは脇が褐色で縦斑がなく、腰は赤褐色、小雨覆は灰褐色である。以上の特徴から、本種はシベリアジュリンとコジュリンから区別できる(高野, 1980, 2015; 五百澤ほか, 2014; 永井, 2023)。

頭頂や喉元に黒色の斑が見られないことから、本個体は雌であると判断した(高野, 1980, 2015; Svensson, 1992; 五百澤ほか, 2014; 永井, 2023)。尾羽の先端の状態から



図 1. 野鳥観察を行った場所。S は観察を始めた地点，F は観察を終えた地点，O は嘴が変形したオオジュリンが観察された場所を示す。赤色の破線と矢印は野鳥観察を行った道順を示す。OpenStreetMap を改変して作成した。



図 2. 嘴が変形したオオジュリンが観察された場所。図 1 の O を拡大した。星印はオオジュリンが観察されたヨシ群落を示す。Google Map を改変して作成した。

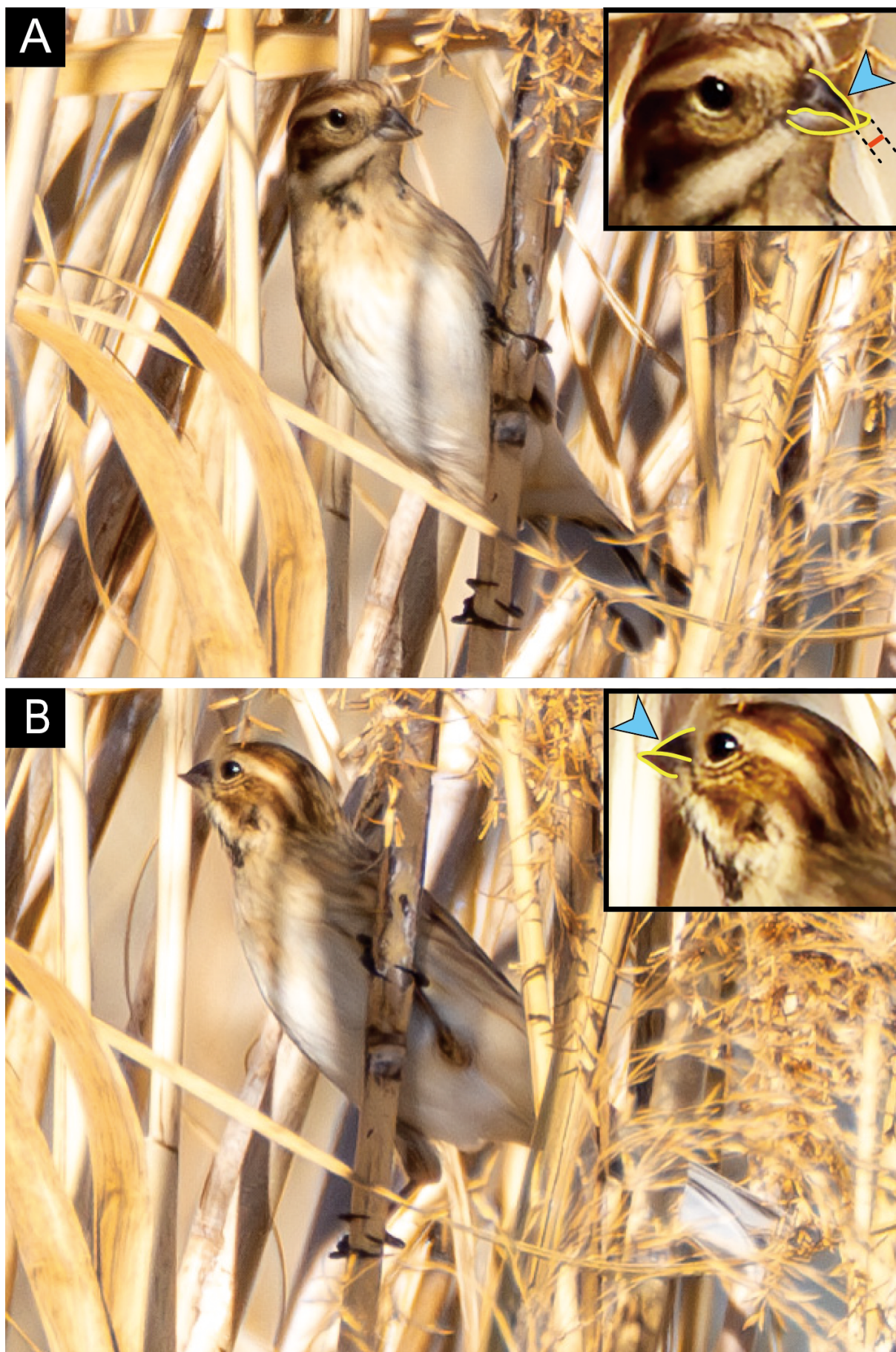


図 3. 嘴が変形したオオジュリン. A: 左向き; B: 右向き. 拡大図の矢印は変形した箇所を示す. 赤線は上嘴の歪み幅 (1.7 mm あるいは 1.9 mm) を示す. 2024 年 1 月 8 日, 大和田正人撮影.

表 1. 2001 から 2004 年に北海道松前白神の標識調査中に捕獲された嘴が変形した個体の割合

学名	和名	総捕獲個体数	嘴が変形した 個体の総数	割合 (%)
<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ	20	1	5.00
<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	67	2	2.99
<i>Certhia familiaris</i>	キバシリ	42	1	2.38
<i>Sitta europaea</i>	ゴジュウカラ	55	1	1.82
<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	102	1	0.98
<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	1568	2	0.13
<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	1849	3	0.16
<i>Calliope calliope</i>	ノゴマ	2246	2	0.09
<i>Phylloscopus borealoides</i>	エゾムシクイ	2452	2	0.08
<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	1848	1	0.05
<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	2525	1	0.04

林 (online) と山階鳥類研究所 (2002, 2003, 2004, 2005) に基づいて集計した。

年齢を識別できるが (金子, 1976; Svensson, 1992)、観察および撮影した画像では判断ができなかった。本個体の上嘴は変形して先端が右方向に歪み、上下の嘴が噛み合っていなかった (図 3)。本種の雌の露出嘴峰長の平均は、幼鳥では 8.7 mm、成鳥では 9.3 mm であることが示されており (金子, 1976)、それに基づいて撮影した画像から上嘴の先端の歪み幅を推測したところ、歪み幅は 1.7 mm あるいは 1.9 mm であった (図 3A)。

これまでに嘴が変形したオオジュリンに関する報告はされていない。林 (online) は、2001 から 2004 年の 4 年間に渡って、北海道松前町白神の標識調査中に見られた嘴が変形した野鳥を記録した。その結果、嘴の変形は 11 種 17 個体で見られ、全て幼鳥であった。山階鳥類研究所 (2002, 2003, 2004, 2005) の報告からそれぞれの種で嘴が変形した個体の割合を調べたところ、ビンズイ *Anthus hodgsoni* が最も高く、次いでカワラヒワ *Chloris sinica*、キバシリ *Certhia familiaris*、ゴジュウカラ *Sitta europaea* の順であった。その他の 7 種は 1 % 以下であった (表 1)。前述の 4 種については捕獲個体数が少ないため、偶然割合が高くなった可能性がある。通常では、野鳥の嘴に変形が見られる割合は 1 % 以下であることが知られている (Pomeroy, 1962; Sharp & Neill, 1979; Tweit *et al.*, 1983; Nogales *et al.*, 1990; Handel *et al.*, 2010; Zylberberg *et al.*, 2016)。したがって、本種の嘴が変形した個体の割合についても同様に 1 % 以下であることが推測される。

嘴が変形する原因には、遺伝的要因または環境要因、あるいはその両方が関わっている。環境要因としては、外傷、栄養不足、ウイルスや真菌の感染、農薬や放射線の影響などが上げられる (Pomeroy, 1962; Handel *et al.*, 2010; Zylberberg *et al.*, 2016)。しかし、本個体の嘴が変形した要因は、今回の観察および撮影した画像では分からなかった。

嘴の変形は採餌や羽繕いなどの行動に影響し、体重の減少、羽毛の状態悪化、病気に罹りやすくなるなど、その個体の生存に不利益をもたらす (Pomeroy, 1962; Clayton *et al.*, 2005; Handel *et al.*, 2010; Zylberberg *et al.*,

2016)。北海道松前白神で嘴の変形が記録された野鳥は全て幼鳥であったことから (林, online)、嘴の変形による不利益を受けながら成長することは相当困難であると考えられる。本個体の年齢は識別できなかったが、仮に日本鳥学会 (2024) で繁殖が報告されている青森県や秋田県で巣立ちした幼鳥であると見なしても、新横浜公園に到着するまでに 200 km 以上の距離を移動している。また、今回の野鳥観察全体で観察された本種はこの 1 個体のみであったことから、単独で行動している可能性も考えられる。しかし、筆者が観察した時点では羽毛の状態に異常は見られず、採餌や飛翔も普通に行っていた。したがって、オオジュリンは、上嘴の先端が 2 mm 程度歪んだとしても、採食や羽繕いに大きな支障をきたすことはないと考えられる。

謝辞

日本野鳥の会の安西英明氏からオオジュリンの同定について助言を頂いた。大和田幸子氏には野鳥観察の補助をして頂いた。原稿の改訂では、査読者から数多くの有益なコメントを頂いた。これらの方々に深くお礼を申し上げる。

引用文献

- Clayton, D. H., B. R. Moyer, S. E. Bush, T. G. Jones, D. W. Gardiner, B. B. Rhodes & F. Goller, 2005. Adaptive significance of avian beak morphology for ectoparasite control. *Proceedings of the Royal Society B*, **272**: 811–817.
- Handel, C. M., L. M. Pajot, S. M. Matsuoka, C. van Hemert, J. Terenzi, S. L. Talbot, D. M. Mulcahy, C. U. Meteyer & K. A. Trust, 2010. Epizootic of beak deformities among wild birds in Alaska: an emerging disease in North America? *The Auk*, **127**: 882–898.
- 林 吉彦, online. 気になる野鳥のくちばしの奇形. バードリサーチニュース, 2005 年 3 月号. https://www.bird-research.jp/1_newsletter/dl/BR_Newsletter_Vol2_3.pdf. (accessed on 2024-January-22).

- 五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂日本の鳥 550 山野の鳥. 416 pp. 文一総合出版, 東京.
- 金子与止男, 1976. カシラダカおよびオオジュリンの測定値の性・年令変異. 山階鳥類研究所研究報告, **8**(2): 206–212.
- 永井真人, 2023. ヽ鳥くんの比べて識別! 野鳥図鑑 670 第4版. 400 pp. 文一総合出版, 東京.
- 日本鳥学会, 2024. 日本鳥類目録改訂第8版. 472 pp. 日本鳥学会, 東京.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 2020. 神奈川の鳥 2011–15, 神奈川県鳥類目録 VII. 685 pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜.
- Nogales, M., A. Martin & F. Zino, 1990. Bill malformation of juvenile Cory's Shearwaters (*Calonectris diomedea borealis*) on Selvagem Grande. *Bocagiana*, **139**: 1–5.
- Pomeroy, D. E., 1962. Birds with abnormal bills. *British Birds*, **55**: 48–72.
- Sharp, M. S. & R. L. Neill, 1979. Physical deformities in a population of wintering blackbirds. *Condor*, **81**: 427–430.
- 新横浜公園, online. 生き物図鑑. <https://www.nissan-stadium.jp/shinyoko-park/zukan/index.php>. (accessed on 2024-January-22).
- Svensson, L., 1992. Identification guide to European passerines, fourth, revised and enlarged edition. 368 pp. British Trust for Ornithology, Stockholm.
- 高野伸二, 1980. 野鳥識別ハンドブック. 334 pp. 日本野鳥の会, 東京.
- 高野伸二, 2015. フィールドガイド日本の野鳥増補版改訂新版. 392 pp. 日本野鳥の会, 東京.
- 高野伸二・浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦, 1985. 日本の野鳥. 591 pp. 山と溪谷社, 東京.
- Tweit, R. C., K. B. Burk, S. M. Russell, J. B. Truan II & P. M. Walters, 1983. Incidence of crossed bills in Inca Doves. *North American Bird Bander*, **8**: 12.
- 山階鳥類研究所, 2002. 平成13年度鳥類標識調査業務報告書. 71 pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所, 2003. 平成14年度鳥類標識調査業務報告書. 64 pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所, 2004. 平成15年度鳥類標識調査報告書. 83 pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所, 2005. 平成16年度鳥類標識調査報告書. 89 pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 横浜市, online. 新横浜公園. <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/fuku-machi/barrierfree/shisetsu/shisetsu/07109.html>. (accessed on 2024-January-22).
- Zylberberg, M., C. Van Hemert, J. P. Dumbacher, C. M. Handel, T. Tihan & J. L. DeRisi, 2016. Novel picornavirus associated with avian keratin disorder in Alaskan birds. *mBio*, **7**: e00874-16.

大和田正人：神奈川大学理学部生物コース

(受領 2024 年 5 月 12 日；受理 2025 年 2 月 12 日)